

令和4年10月1日

敬愛短大附属幼稚園だより 10月号

現在、園では10月1日（土）に開催の第50回秋季大運動会に向けて天気の様子を見ながら園児たちは頑張って練習をしています。年中さんが園庭で練習をしているときには、お隣の高洲小の児童が体育の授業の休憩タイムにフェンスに鈴なりになって見学しています。演技が終わるとみんな拍手をしてくれて、園児たちの表情もとても満足げです。

今年の運動会は50回目という園の歴史では記念の開催となります。今年は年少さんの在籍人数がやや少ないのですが、本年度は園の見学者も増加傾向で、未就園児クラス希望者がかなり早くから訪れているのが特徴です。園見学の際に園児が元気に運動会の練習をする姿を見て、幼稚園ではこんなに出来るようになるのだとびっくりされている様子をよく拝見しました。家庭ではなかなかできないことでも集団の中で社会性が培われて成長していくことも多く、たくさんの可能性を持った子どもたちを見るにつけ、その子に適した援助を子どもの興味関心に即して適切に行うように努めています。

園だよりは毎月発行されており、子育ての参考になることや、将来社会を見据えた視点からの考え方に重きを置いて執筆しております。どの園でも園だよりやそれに類するものは発行されていますが、本園の特徴は健全な人を育むための大切な考え方について様々な角度から考えて提案をさせていただいています。その意味では、行事予定覧だけでなく、表面をよく読み込んでいただけると子どもの成長にどのように大人としてかかわっていけばよいかが見えてくると考えられます。そして行動化につなげていただくと更にお役に立てるのではないかという想いから掲載をしています。そして、ふと立ち止まって考えていただくと、たった1枚の紙面ではありますが、大きな価値を見出すこともできるのではないかと思います。

【英語耳を孫に見出す】

先日、久しぶりに、まもなく3歳になる孫（女兒）が東京から遊びにやってきました。そのときの様子でびっくりしたことがありました。それは英語についての発音です。まだ名詞しか話せませんが、話している英語の話し方が英語圏の方が話す時と同じなのです。どうしてそのような発音ができるようになったのか不思議でしたので、ママが教えたのかと思って聞きましたら、そのようなことはしていないとのことでした。来年入園する地元の幼稚園の先生からも「英語を習っているの？」と聞かれたそうです。もちろんそのようなことはまったくしていません。

ママに聞いたところによると、おもちゃ遊びの道具からの音とYouTubeからの音でこのような発音をしているということでした。誰に強制されるでもなく、楽しみながら遊ぶ中で自然に耳から入った音が口から自然に出ているようです。このようなことから孫はもしかすると英語耳を持っているのではないかと考えられます。そうであれば、日本人の英語教師ではなくてネイティブスピーカーから学ぶことが必要です。でも、今は日本語を学ぶことが大切です。

音を聞き分ける力があり、また、それを忠実に再現できる能力があるのかもしれませんが。私にも経験があるのですが、カナダでホームステイした際は英語を英語としてそのまま捉えてその都度日本語に変換することをほとんどしていませんでした。英語の修得で日本人がつかずくのは、「日本語でこれはどう言うの？」と考えてから英語を話そうとするからです。英語を英語で捉えればなんでもないことです。カナダに同行していた日本の英語の先生は正しい英語を間違いなく話そうとして苦戦していましたが、そのようなことで苦勞する必要はありません。日本人が苦勞するのは案外そのような点です。

英語耳をもっているかもしれない孫は、音を正確に捉えているので、もしかすると音楽なども容易にできるようになるかもしれません。この先、成長の過程で、この子の特性として無理なく英語や音楽に親しみながら接することができたら豊かな心を育むことができるのではないかと“きーくんジィジィ”は密かな楽しみを見つけ出したのでした。

（園長 杉山清志）